

## 三井住友信託銀行株式会社グリーンボンド 2018

**契約の種類**： アニュアルレビュー

**日付**： 2019年9月13日

**担当者**：

Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

### はじめに

2018年9月、三井住友信託銀行株式会社（以下、「三井住友信託」）は (i) 再生可能エネルギー、(ii) エネルギー効率、(iii) クリーンな運輸、(iv) 汚染の防止と管理、(v) グリーンビルディングに関連する適格グリーンプロジェクトへのファイナンス又はリファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行しました。2019年9月、三井住友信託はサステナリティクスとの間で、グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトを審査し、これらのプロジェクトが三井住友信託グリーンボンドフレームワーク（以下、「グリーンボンドフレームワーク」）<sup>1</sup> で規定された資金使途やレポーティングのクライテリアを満たしているか評価を行う契約を締結しました。

### 評価基準

サステナリティクスは以下の要件について、2018年及び2019年に調達資金の充当を受けたプロジェクトと資産を評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. グリーンボンドフレームワークで規定された各資金使途クライテリアに対する少なくとも一つの主要業績評価指標（KPI）に関する報告

表1に調達資金の使途と適格クライテリア、表2に関連するKPIを示します。

#### 表1：調達資金の使途及び適格クライテリア

三井住友信託はグリーンボンドによる調達資金を全部又は一部、既存・新規の環境関連プロジェクト（以下、「適格グリーンプロジェクト」）のファイナンスに充当すると表明しています。適格グリーンプロジェクトには、下表に示すカテゴリーの1つ以上に該当するプロジェクトが含まれます。

調達資金の使途	適格クライテリア
(i) 再生可能エネルギー	太陽光エネルギー、風力エネルギー、地熱エネルギー、バイオマスエネルギー、ならびに、発電能力が25メガワット以下の小規模流れ込み式水力エネルギー（貯水設備の規模の拡大を伴わない、既存の大型水力発電所の改修を含む）の発電・送電施設の開発、建設および運営。
(ii) エネルギー効率	送電網、送電および関連システムに関するスマートグリッド、エネルギー貯蔵、オートメーション及びインテリジェンスのエネルギー効率、インフラストラクチャー、機器、技術およびプロセスを大幅に改善するための改修または改築。
(iii) クリーンな運輸	クリーンエネルギー自動車への移行、公共交通機関の開発、運用、機能向上を支援するための支出。
(iv) 汚染の防止と管理	廃棄物のリサイクルなど、汚染防止・管理施設の開発、建設および運営。

<sup>1</sup>三井住友信託グリーンボンドフレームワーク（2018）：

[https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2018/09/Sumitomo-Mitsui-Trust-Bank\\_Green-Bond\\_Framework-and-SPO\\_Final.pdf](https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2018/09/Sumitomo-Mitsui-Trust-Bank_Green-Bond_Framework-and-SPO_Final.pdf)

(v) グリーンビルディング	<p>「LEED」（エネルギーと環境デザインにおけるリーダーシップ）、「BREEAM」（イギリス建築研究所建築物性能評価制度）、又は「CASBEE」（建築環境総合性能評価システム）のような、地域、国家または国際的に認知された1つ以上の基準または認証を受けた、新規、既存、または改修された建築物で、LEEDにおいては「LEED ゴールド」以上、BREEAMにおいては「エクセレント」以上、CASBEEにおいては「Aランク」以上であると認められたもの。</p>
----------------	--

表2：主要業績評価指標（KPI）

主要業績評価指標（KPI）	
インパクト・レポート	<p>「再生可能エネルギー」プロジェクトの場合は、CO2 排出削減トン数を報告します。他のプロジェクトカテゴリーについては、適切な効果測定基準をレポートで使用する予定です。これら基準には以下が含まれます：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 節約したエネルギー量（MW）</li> <li>• 乗客の移動距離当たりのCO2 排出量（キロメートル）</li> <li>• 廃棄又はリサイクルされた廃棄物量</li> <li>• 建物の数と認証レベル（「LEED プラチナ」や「CASBEE S」など）</li> </ul> <p>資金を充当した適格グリーンプロジェクトによる環境への影響を、ポートフォリオ又はカテゴリーごとに集計します。</p>

**発行体の責任**

三井住友信託は、プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

**独立性と品質管理**

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、三井住友信託のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同社のグリーンボンドフレームワークとの適合性の確認のため、三井住友信託の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して三井住友信託から提示された情報と事実とに依拠しています。三井住友信託が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

## 結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果、<sup>2</sup>すべての重要な側面において、三井住友信託のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の使途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。三井住友信託はサステナビリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金が2019年1月31日時点で全額充当されたことを開示しました。

## 調査結果の詳細

表3：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2018年及び2019年にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、グリーンボンドフレームワーク及び上の表1に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	なし
レポーティングクライテリア	2018年及び2019年にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがグリーンボンドフレームワーク及び上の表2に示されているKPIと適合する形で報告されたかを検証。報告されたKPIの一覧は参考資料2を参照。	審査したすべてのプロジェクトは関連するKPIについてレポーティングクライテリアに従って報告されていました。	なし

<sup>2</sup>サステナビリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナビリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

## 参考資料 1：審査対象のプロジェクトカテゴリー一覧

#	プロジェクトカテゴリーの領域	プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	エクセーター原則カテゴリー	融資契約日	カテゴリー内の全プロジェクトが資金使途クライテリアに適合しているか
1	再生可能エネルギー	風力	3 (陸上風力1件、洋上風力2件)	カテゴリーB：3プロジェクト	過去24ヵ月以内：3プロジェクト	適合
2	再生可能エネルギー	太陽光	13	カテゴリーB：13プロジェクト	過去24ヵ月以内：13プロジェクト	適合

## 参考資料 2：プロジェクトのインパクト一覧

#	プロジェクトカテゴリーの領域	プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	グリーンインパクト：CO2排出削減量の合計 (t-CO2/年)	グリーンインパクトのうち三井住友信託に帰属するもの (t-CO2/年) <sup>3</sup>	カテゴリー内の全プロジェクトのKPIがレポートングクライテリアに適合しているか
1	再生可能エネルギー	風力	3 (陸上風力1件、洋上風力2件)	494,988	51,929	適合
2	再生可能エネルギー	太陽光	13	155,749	126,756	適合

<sup>3</sup> 各プロジェクトにおける三井住友信託の出資比率に基づいて算出。

## 免責事項

© Sustainalytics 2019 無断複写・複製・転載を禁ず

このセカンドパーティ・オピニオン（以下「オピニオン」）に関する知的財産権はすべてサステナリティクスに帰属します。サステナリティクスの書面による事前の許可がない限り、本オピニオンのいかなる部分も、電子的、機械的、写真複製、録音、その他の形式・手段を問わず、複写・転載・公開すること、二次的著作物の作成、形式を問わず第三者に提供すること、又は本書の一部や本書の内容を公表することはできません。また、オピニオンの対象となる「グリーンボンドフレームワーク」を伴うことなく、公開することもできません。

本「オピニオン」は、特定の投資家を対象とせず、一般の投資家向けに、分析対象の債券が持続可能かつ責任あるものだと考えられる理由を述べるために作成されました。従って、本「オピニオン」は情報提供のみを目的とするものであり、サステナリティクスは「オピニオン」の内容についてのいかなる形の賠償責任も、本「オピニオン」やそこに含まれる情報の利用に起因する損害に関する賠償責任も認めることはありません。

本「オピニオン」はクライアントから提供された情報に基づいて作成されているため、サステナリティクスは本「オピニオン」に提示された情報の完全性、正確性及び最新性を保証することなく、また誤差脱漏に対する責任を負うこともしません。引用している第三者名は、情報の出所を示すものであり、かかる情報所有者によるスポンサーシップ又は推奨とはならないことにご留意ください。

本「オピニオン」に記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、企業への投資の可否、又は投資可能ユニバース／ポートフォリオへの組み入れの可否についての表明や保証とみなすことはできません。さらに本「オピニオン」はいかなる場合も、債券の経済的パフォーマンスや信用力の評価と解釈することはできず、また債券による調達資金の効果的な充当を扱ったものと解釈することもできません。

クライアントは、自身のコミットメントの遵守、実行及びモニタリングに関する実証及び遂行に対して全ての責任を引き受けるものとします。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

## サステナリティクス

サステナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステナリティクスは世界各地に13のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESGに関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステナリティクスはClimate Bonds Standard Boardにより検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。サステナリティクスは2015年に、Global Capital社により「最も優れたSRI・グリーンボンドリサーチ・格付企業」に選出され、2018年と2019年には「もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018年には、Climate Bonds Initiative及びEnvironmental Finance誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定され、2019年にはClimate Bonds Initiativeにより「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれました。また、サステナリティクスは2018年に一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞し、2019年にはジャパン・グリーンボンド・アワードのジャパン・グリーンコントリビューター部門で「環境大臣賞」を受賞しております。

詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com)をご参照、又は

[info@sustainalytics.com](mailto:info@sustainalytics.com)にご連絡下さい。

